題材デザイン　FIRST STEP　―小学校図画工作科―

1　題材デザインは何のため？

○学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
○「指導と評価の一体化」の観点から、題材の指導と評価の計画を作成することが求められています。
○教師が児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
○児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。

2　題材デザインの手順

はじめに、図画工作科の内容の構成、授業時数、各学校で作成した年間指導計画を確認しましょう。

Step1　題材を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、題材の目標を作成します。

Step2　題材の評価規準を作成します。

Step3　題材の「指導と評価の計画」を作成します。

■　第３学年の「顔を出したら…」の題材を例に題材デザインを行っていきます。

題材デザインの具体（例）　第3学年　A 表現
題材名　「顔を出したら…」

はじめに、図画工作科の内容の構成、授業時数、各学校で作成した年間指導計画を確認しましょう。

【内容の構成】

「A表現」	「B鑑賞」
（1）発想や構想 ア　造形遊びをする活動 イ　絵や立体、工作に表す活動 （2）技能 ア　造形遊びをする活動 イ　絵や立体、工作に表す活動	（1）鑑賞 ア　鑑賞する活動
〔共通事項〕(1) ア　形や色などの造形的な特徴を理解する イ　自分のイメージをもつ	

【授業時数】

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
年間授業時数	68	70	60	60	50	50
週あたり時数	2	2	1.7…	1.7…	1.4…	1.4…

【年間指導計画の例】

月	題材名	時
4	かいてみつけよう 筆と水と絵の具のコラボレーション	2 2
5	うごけ！わりピンワールド 組んでつないでだんボール	4 2
6	だんボールのへんしん 焼き物の成形	2 2
7	立ち上がった絵	4
9	土で何する？orおしの葉 顔を出したら…	2 4
10	思い出の風けい 焼き物の絵付け	6 2
11	ひみつのすみか 空きようきを組み合わせて	2 6
12	オリジナル筆記用具 トンカントンカンくぎ打ち名人	2 2
1	ひもでつなごう いろをうつそう 絵を見て感じたこと	2 4 2
2	ねん土で町づくり 磁石のトリック	2 4
3	磁石のトリック	2

「A 表現」及び「B 鑑賞」全体の内容の授業時数の配分については、各内容を十分に関連させ、内容に偏りのないように全体の配当を考えて計画を立てます。
「A 表現」について、工作に表すことの内容に配当する授業時数が、絵や立体に表す内容に配当する授業時数とおよそ等しくなるように計画することが必要です。

Step1　題材を通して児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、題材の目標を作成します。

■　小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　図画工作編（以下、学習指導要領解説）で、題材で指導する事項を確認します。本題材では、「A表現」(1)イ、(2)イ　「B鑑賞」(1)ア　〔共通事項〕(1)ア、イを取り上げます。

※薄い文字は本題材では取り上げない指導事項です。

〔第３学年及び第４学年〕
A表現
(1)ア　造形遊びをする活動を通して、身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。
　イ　絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。
(2)ア　造形遊びをする活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること。
　イ　絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
B鑑賞
(1)ア　身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
〔共通事項〕
(1)ア　自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
　イ　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

各学年の内容の「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導については、相互の関連を図るようにしましょう。
〔共通事項〕の指導に当たっては、「A 表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて十分な指導を行うことができるようにしましょう。

■　児童の実態や既習事項等を想起します。

■　題材に即して、題材の目標を設定します。

※下線部は題材に即した内容です。

（1）・顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かる。
　・水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
（2）・穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
　・実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
　・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。
（3）・進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

Step2　題材の評価規準を作成します。

■　「参考資料」の巻末資料(p.89～)に示された「内容のまとまりごとの評価規準（例)」を基に、学習指導要領解説に示されている指導計画の作成と内容の取扱いを参考にしながら、題材に即して作成します。

※下線部は題材に即した内容です。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かっている。 ・水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえ、題材の目標から作成する方法もあります。

Step3　題材の「指導と評価の計画」を作成します。

■　学習指導要領解説に示されている指導計画の作成と内容の取扱いを参考にしながら、児童が主体的・対話的で深い学びを実現できるように計画を立てます。

事前に
　材料や用具について、児童が自分らしく発想や構想をしたり、技能を働かせたりできるように、事前準備をしましょう。

導入では
　児童が題材への関心・意欲や見通しをもつことができるように、場の設定や導入を工夫しましょう。

表現活動では
　一人一人のよさや個性を認め、児童の思いを大切にする視点をもって、共感的な声掛けを行いましょう。

鑑賞活動では
　児童が鑑賞の対象から感じ取ったり、考えたりすることを表現するために、書く活動を取り入れましょう。

振り返りでは
　何について振り返ればよいかを明確に示し、本時の振り返りを行いましょう。

時間	●学習のねらい・学習活動	知識	技能	思考・判断・表現 発想や構想	思考・判断・表現 鑑賞	態度	留意点
1	●形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。 ・段ボールを使ってパネルをつくることを理解し、表したいことを見付けて、段ボールに穴を開ける。 ・水彩絵の具を使って、表したいことを表す。 ・顔を出したときにより楽しくなるための表し方などを考える。	○ 観察 対話	―	○ 観察 対話 ﾜｰｸｼｰﾄ	―	◎ 観察 対話 作品 ﾜｰｸｼｰﾄ	「知識」については、児童の様子を観察する、児童と対話するなどして、全員の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。 「思考・判断・表現（発想や構想）」については、児童の様子を観察する、児童と対話する、ワークシートを確認するなどして、児童の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。
2	・段ボールを使ってパネルをつくることを理解し、表したいことを見付けて、段ボールに穴を開ける。 ・水彩絵の具を使って、表したいことを表す。 ・顔を出したときにより楽しくなるための表し方などを考える。	―	○ 観察 作品	◎ 観察 対話 作品 ﾜｰｸｼｰﾄ	―		「技能」については、児童の様子を観察する、作品を確認するなどして、全員の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。 「思考・判断・表現（発想や構想）」については、児童の様子を観察する、児童と対話する、作品やワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。
3	●形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 ・水彩絵の具やほかの材料を使って、顔を出したときにより楽しくなるように表し方を工夫して表す。 ・作品についての紹介文を書く。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品 ﾜｰｸｼｰﾄ	―	―		「知識・技能」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、作品やワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。
4	●実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 ・互いに作品を紹介し、鑑賞する。 ・学習を振り返る。	―	―	―	◎ 観察 対話 ﾜｰｸｼｰﾄ		「思考・判断・表現（鑑賞）」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、ワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。 「主体的に学習に取り組む態度」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、作品を確認する、ワークシートで児童の取組や振り返りを確認するなどして、活動全体を通して把握し、記録に残す。

■　それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて「おおむね満足できる」状況（Ｂ)と判断するポイントや「努力を要する」状況（Ｃ)と判断される児童への指導の手立てを想定します。

観点	題材の評価規準【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
知識	○顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かっている。 【観察・対話・作品】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 表したいことに合わせて、段ボールの形や穴の位置を決め、水彩絵の具の色を選んでいる。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 段ボールの形や水彩絵の具の色を決めることができるように、表したいことの具体的な様子や色に対するイメージを尋ねる。
技能	○水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 【観察・対話・作品・ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 段ボールに色が定着するように水の量を調整しながら水彩絵の具を扱うとともに、段ボールやそのほかの材料の特徴を生かしたり組み合わせたりして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 色が定着するかどうかを試すことができるように段ボールの端材を準備したり、児童が材料の組合せを試すことができるような場を設定したりする。
思考・判断・表現（発想や構想）	○形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 【観察・対話・作品・ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、これまでに見たことがあるパネルを想起して表したいことを見付け、段ボールの形や穴の位置、選んだ色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考え、作品に表したりワークシートに記入したりしている。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 表したいことを見付けたり、どのように表すかを考えたりすることができるように、友人と対話する時間や友人の作品を鑑賞する時間を設定する。
思考・判断・表現（鑑賞）	○形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【観察・対話・ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 友人の作品の紹介を聞きながら、表したいことやその表し方の工夫に気付いたり、顔を出した様子を見て造形的なよさや面白さを見付けたりして、ワークシートに記入している。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 造形的なよさや面白さを見付けることができるように、作品の紹介の際に、互いに顔を出して見合ったり、グループで話し合ったりするように声掛けをする。
主体的に学習に取り組む態度	○つくりだす喜びを味わい進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 【観察・対話・作品・ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 顔を出したら楽しくなるように段ボールの形や穴の位置を考え、表したいことに合わせて表し方を工夫して表現したり、互いにパネルから顔を出して鑑賞したりしている。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 顔を出したら楽しくなるように工夫して取り組むことができるように、パネルをつくる際は、机をグループの形にして互いの活動が見えるような場を設定するとともに、製作途中のパネルから顔を出して鏡で確認するように促す。

学習評価において、妥当性や信頼性を高めるためには、「おおむね満足できる」状況(B)としてどのような姿が考えられるのかを具体的に予測しておく必要があります。ただし、実際には児童一人一人が自分の思いを実現するので、表現する姿は多様であることを理解し、教師が予測した姿だけで評価をしてしまわないように留意することが大切です。

授業を始める前に、もう一工夫！

場の設定

　図画工作科では、授業を行う場所が重要な意味をもちます。安全面に配慮したり、準備や片付けの場面を想定したりして授業を行う場所を決めましょう。さらに、その中での場の設定も重要です。机の配置や材料や用具の置き場、製作した作品の置き場などを計画的に設定することで、児童の表現活動や鑑賞活動をより効果的なものにすることができます。

材料や用具の準備

　題材における指導のねらいと合致する材料や用具を選び、扱うことが大切です。安全指導が必要な材料や用具については、その扱い方に関する指導を確実に行いましょう。児童の活動への影響を考えて、材料を提示するタイミングを計画することも大切です。扱う材料は、全て教師が準備する、若しくは児童が一部持参するなど方法は題材や指導のねらいによって様々です。児童が表したいことに合わせて材料を使用できるように、学級全員が自由に使用することのできる材料を常に準備しておいたり、児童自らが持参したりするなどの準備や計画を工夫しましょう。

岡田京子「小学校図工　指導スキル大全」を基に作成

学習評価　FIRST STEP　―小学校図画工作科―

1 学習評価は何のため？

学習評価は、子供たちが「できるようになる」ためにあります。子供の学習状況を適切に見取り、児童の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。

2 学習評価の考え方

（1）評価の観点

育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、以下の3つの観点で評価を行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

（2）観点別学習状況の評価の総括について

観点別学習状況の評価を基に、評価の総括を行います。総括では、「知識・技能」では「知識」と「技能」を、「思考・判断・表現」では「思考・判断・表現（発想や構想）」と「思考・判断・表現（鑑賞）」を考え合わせて総括することになります。

3観点

【観点別学習状況の評価の総括の例】

観点		記録に残す評価	総括
知・技	知　識	B	A
	技　能	A	
思	発想や構想	B	B
	鑑　賞	A	
態		A	A

※「技能」と「思考・判断・表現（発想や構想）」の観点に重点を置いて、評価の総括を行う場合

ポイント

左の例では、評価の観点を重点化して、評価の総括を行っています。重点化しなかった「知識」と「思考・判断・表現（鑑賞）」については、年間指導計画上の題材の位置付けを考慮して、二つの観点を評価する題材を今後設定していきます。

また、評価の観点を重点化せずに、評価を行う場合もあります。記録に残す評価の回数に応じて総括するなど、あらかじめ基準を立てておくことが大切です。

3 3観点において評価すること

各観点において評価することは次のとおりです。

知識・技能	【知識】 材料や作品、出来事などを形や色などの造形的な視点で捉え、自分の感覚や行為を通して理解し、表すことにつなげているか。※形や色の概念を形成する。	【技能】 材料や用具の特徴を生かしながら、表し方などを工夫して、自分らしくつくったり表したりしているか。※豊かな思いに基づいた「思考力、判断力、表現力等」とともに働いて、初めて発揮される。
思考・判断・表現	【発想や構想】 形や色などを基に想像を膨らませたり、造形的な活動や表したいことを思い付いたり、どのように活動したり表したりするかを考えているか。	【鑑賞】 作品などの造形的なよさや美しさなどについて、見たり触ったり話したりすることで、自分の見方や感じ方を深めているか。
主体的に学習に取り組む態度	「知識及び技能」を習得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。 ―具体例― ・材料を見たり触ったりしながら、どんな形ができそうか考えることに進んで取り組もうとしている。 ・黄緑色と水色の和紙を使って花の形をつくり、重ね合わせて新たな形になるようにしている。 ・表したい形になるように、手を動かして何度も和紙を握ったり折ったりして、いろいろな花の形を試しながら工夫して表すことに進んで取り組んでいる。	

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校図画工作)』を基に作成

4 学習評価の機能

○指導に生かす評価

児童一人一人の学習状況を把握し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

※〔指導に生かす評価〕の場面は、随時存在します。児童の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

◎記録に残す評価

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

※〔記録に残す評価〕の場面は、毎時間設定する必要はありません。記録に残す場面を精選することが重要です。題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童の観点別状況を把握し、記録します。

評価資料の収集や評価方法の工夫として、次のようなものが考えられます。

・観察（児童の動き、視線、発話）　・対話　・フィールドマップ　・座席表
・ワークシート　・ポートフォリオ　・作品カード　・作品（途中経過も含む）
・デジタルカメラ　・タブレット　等

ポイント

形として残る作品だけで評価せず、つくる過程における児童の活動の様子を観察し、問い掛けたり声掛けしたりしながら児童の思考や行為を見取ります。多様な方法を用いて、適切な場面を捉えて評価していきます。題材のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、計画的に評価の時期や評価方法等を考えておくことが必要です。

5 題材の指導と評価の計画

参考事例　第５学年「〇〇な光の形　～光と白いスポンジを組み合わせて表そう」（全3時間）

時間	●学習のねらい　・学習活動	知	技	思 発想や構想	思 鑑賞	態	留意点等
1・2	●形や色、動き、バランス、色の鮮やかさなどを基に、自分のイメージをもち、メラミンスポンジに光を当てたり形を変えたりしながら感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。 ・ＬＥＤライトの光やメラミンスポンジ、カラーストローを使って、立体に表す。	○ 観察 対話 ワークシート	◎ 観察 対話 作品 ワークシート	◎ 観察 対話 作品 ワークシート			「知識」については、光や材料、材料同士の組合せなどから主に発想や構想をすることから、「思考・判断・表現（発想や構想）」に関連させます。児童の活動の様子を観察する、問い掛けるなどして児童の学習状況を把握し、適宜、指導に生かします。 「技能」については、観察する、問い掛ける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、「思考・判断・表現（発想や構想）」と関連させて全員の学習状況を把握し、記録に残します。 「思考・判断・表現（発想や構想）」については、観察する、問い掛ける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして全員の学習状況を把握し、記録に残します。
3	●自分や友達の作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。 ・主題を伝え合い、作品を相互に鑑賞する。 児童作品より 相互に鑑賞する児童	◎ 観察 対話 作品カード ワークシート			◎ 観察 対話 作品カード ワークシート	◎ 観察 対話 作品カード ワークシート	「知識」については、「思考・判断・表現（鑑賞）」と関連させて、観察する、問い掛ける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして全員の学習状況を把握し、記録に残します。 「思考・判断・表現(鑑賞)」については、観察する、問い掛ける、ＩＣＴ機器を用いて記録する、ワークシートを用いるなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残します。 「主体的に学習に取り組む態度」については、活動を通しての観察、授業後や題材終末の振り返り、ＩＣＴ機器を用いた記録、ワークシートを用いるなどして、全員の学習状況を把握して記録に残します。

※「○」…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす〔指導に生かす評価〕。
「◎」…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す〔記録に残す評価〕。

学習評価の詳細については、佐賀県教育センターHP「学習評価の進め方」を御参照ください。

R4 年度個別実践研究「学習評価　FIRST STEP－小学校図画工作科－」を基に、R6年度個別実践研究授業実践における具体を示します。

題材の学習評価の進め方

第3学年　A 表現
題材名　顔を出したら…

①題材の目標を作成します。

（1）・顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かる。
・水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
（2）・穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
・実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。
（3）・進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

②題材の評価規準を作成します。

■　題材の評価規準を作成する際には、題材の内容、題材の時間数、年間指導計画との関連などを踏まえながら、重点を置く観点があるかどうか、ある場合はどの観点に重点を置くかなどを考えます。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かっている。 ・水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

本題材では、下線部の「技能」と「思考・判断・表現(発想や構想)」に重点を置いて学習評価を行う計画を立てました。

③題材の指導と評価の計画を作成します。

■　観点別学習状況を記録に残す場面などを精選するために、適切に評価を実施できるよう題材の指導と評価の計画を作成します。計画的に評価の時期や評価方法等を考えておくことが必要です。

○…指導に生かす評価
児童の学習改善や教師の指導改善のために、指導に生かす評価を行います。指導に生かす評価の場は随時存在します。題材を通して、適宜児童の学習状況を把握し、次の指導に生かすようにします。

◎…記録に残す評価
題材を通して、観点別学習状況の評価を総括する資料となるよう、適宜児童の学習状況を記録する場面を設定します。評価規準に照らして、児童の観点別学習状況を把握し、記録します。

時間	●学習のねらい・学習活動	知識	技能	思考・判断・表現 発想や構想	思考・判断・表現 鑑賞	態度	留意点
1	●形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。 ・段ボールを使ってパネルをつくることを理解し、表したいことを見付けて、段ボールに穴を開ける。	○ 観察 対話	－	○ 観察 対話 ワークシート	－	◎ 観察 対話 作品 ワークシート	「知識」については、児童の様子を観察する、児童と対話するなどして、全員の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。 「思考・判断・表現（発想や構想）」については、児童の様子を観察する、児童と対話する、ワークシートを確認するなどして、児童の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。
2	・水彩絵の具を使って、表したいことを表す。 ・顔を出したときにより楽しくなるための表し方などを考える。	－	○ 観察 作品	◎ 観察 対話 作品 ワークシート	－		「技能」については、児童の様子を観察する、作品を確認するなどして、全員の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。 「思考・判断・表現（発想や構想）」については、児童の様子を観察する、児童と対話する、作品やワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。
3	●形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 ・水彩絵の具やほかの材料を使って、顔を出したときにより楽しくなるように表し方を工夫して表す。 ・作品についての紹介文を書く。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品 ワークシート	－	－		「知識・技能」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、作品やワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。
4	●実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 ・互いに作品を紹介し、鑑賞する。 ・学習を振り返る。	－	－	－	◎ 観察 対話 ワークシート		「思考・判断・表現（鑑賞）」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、ワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。 「主体的に学習に取り組む態度」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、作品を確認する、ワークシートで児童の取組や振り返りを確認するなどして、活動全体を通して把握し、記録に残す。

日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことは重要ですので、児童の学習状況を記録に残す場面以外でも、教師が指導の学習状況を確認する必要があります。

④授業を行います。

■　題材の指導と評価の計画に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。

⑤観点ごとに総括します。

■　集めた評価資料やそれに基づく評価結果などを基に、重点を置いた観点を考慮し、観点ごとの総括的評価を行います。

氏名	観点		記録に残す評価	総括	メモ
○○　○○	知 技	知　識	B	B	
		技　能	B		表したいことを見付け、着色したり材料に触れ試したりしたことを基に、次々に表したいことを見付けていた。
	思	発想や構想	A	A	
		鑑　賞	B		
	態		B	B	
□□　□□	知 技	知　識	B	A	
		技　能	A		表したいことに合わせて、リボンをはさみで切ったり、折り紙を手でちぎったりしながら表し方を工夫して表していた。
	思	発想や構想	B	B	
		鑑　賞	A		パネルから顔を出し合いながら見付けたよさや面白さについて、形や色の視点を基に発言したりワークシートに記入したりしていた。
	態		A	A	

本題材では、「技能」と「思考・判断・表現(発想や構想)」に重点を置いたので、上の表のような総括を行います。
「十分満足できる」状況の評価(A 評価)については、児童の表現している姿が、評価規準に照らして質的な高まりや深まりがもっている状況を評価します。具体的な姿を捉え、判断し、記録に残すことで、観点ごとの総括的評価に生かします。

学習指導プラン

小学校図画工作科第３学年
題材名　顔を出したら…

内容のまとまり

〔第３学年及び第４学年〕「絵や立体、工作」「鑑賞」

「Ａ表現」(1)イ、(2)イ　「Ｂ鑑賞」(1)ア　〔共通事項〕(1)ア、イ

１　本題材で扱う学習指導要領の内容

〔第３学年及び第４学年〕

Ａ表現

(1)イ　絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。

(2)イ　絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

Ｂ鑑賞

(1)ア　身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

(1)ア　自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。

イ　形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

２　題材の目標

(1)・顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かる。
・水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

(2)・穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
・実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。

(3)・進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

３　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かっている。 ・水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

４　指導と評価の計画（全４時間）

時間	●学習のねらい・学習活動	知識	技能	思考・判断・表現		態度	留意点
				発想や構想	鑑賞		
1	●形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。 ・段ボールを使ってパネルをつくることを理解し、表したいことを見付けて、段ボールに穴を開ける。 ・水彩絵の具を使って、表したいことを表す。 ・顔を出したときにより楽しくなるための表し方などを考える。	○ 観察 対話	―	○ 観察 対話 ﾜｰｸｼｰﾄ	―	◎ 観察 対話 作品 ﾜｰｸｼｰﾄ	「知識」については、児童の様子を観察する、児童と対話するなどして、全員の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。 「思考・判断・表現（発想や構想）」については、児童の様子を観察する、児童と対話する、ワークシートを確認するなどして、児童の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。
2		―	○ 観察 作品	◎ 観察 対話 作品 ﾜｰｸｼｰﾄ	―		「技能」については、児童の様子を観察する、作品を確認するなどして、全員の学習状況を把握し、適宜、指導に生かす。 「思考・判断・表現（発想や構想）」については、児童の様子を観察する、児童と対話する、作品やワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。
3	●形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 ・水彩絵の具やほかの材料を使って、顔を出したときにより楽しくなるように表し方を工夫して表す。 ・作品についての紹介文を書く。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品 ﾜｰｸｼｰﾄ	―	―		「知識・技能」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、作品やワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。
4	●実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 ・互いに作品を紹介し、鑑賞する。 ・学習を振り返る。	―	―	―	◎ 観察 対話 ﾜｰｸｼｰﾄ		「思考・判断・表現（鑑賞）」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、ワークシートを確認するなどして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。 「主体的に学習に取り組む態度」については、児童の様子を観察したりデジタルカメラで記録したりする、児童と対話する、作品を確認する、ワークシートで児童の取組や振り返りを確認するなどして、活動全体を通して把握し、記録に残す。

○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。
◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

本題材では、「技能」と「思考・判断・表現(発想や構想)」に重点を置いて、観点ごとの総括的評価を行います。
題材の内容、題材の時間数、年間指導計画との関連などを踏まえながら、重点を置く観点があるかどうか、ある場合はどの観点に重点を置くかについて考えます。
「学習評価 FIRST STEP」

５　１・２時について

(1)　１・２時の目標

・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。

(2)　１・２時の展開

過程	学習活動　┌┄┄┐児童の反応	・指導上の留意点　□評価規準【評価方法】
導入	１　材料と出合い、学習の見通しをもつ。	・穴の開いた段ボールを提示し、どのようなことができそうかを尋ね、材料への関心を高める。 ・児童が発言したことを実演しながら、穴から顔を出すことを思い付くことができるようにする。 ・観光地や駅などで顔を出すパネルを見たことがあるか尋ね、活動への意欲を引き出す。 めあて　顔を出したら楽しくなるパネルを工夫してつくろう。
展開①	２　顔を出したら楽しくなるようなパネルに表したいことを見付ける。 顔を出したら… ・野球選手になって、ホームラン ・スイカになって、スイカわり ・富士山に登って、ヤッホー	・顔を出したら楽しくなるようなパネルの写真を複数提示し、それぞれのモチーフや形、色などを比較して見たり話し合ったりすることで、表したいことを見付けることができるようにする。 ・現時点で考えていることや自分の好きなこと、これまでに経験したことなどを友人と話す時間を設定することで、表したいことを見付けることができるようにする。また児童の発言やつぶやきを板書することで、児童の発想や構想の参考となるようにする。 ・教師がつくったパネルとそれに対応した「顔を出したら」に続く言葉の例を提示することで、ストーリー性のあるパネルを考えることができるようにする。 ・「顔を出したら」に続く言葉をワークシートに記入するように伝える。表したいことを見付けることができていない児童には、段ボールに穴を開けながら見付けてもよいことを伝える。
	３　段ボールカッターを使って、段ボールに穴を開ける。 ・穴の位置を真ん中より右にずらしたら、楽しくなりそう。 ・穴の形を変えたら、楽しくなりそう。	・基準となる穴の大きさを示すために型紙を準備するが、表したいことに応じて、穴の形を工夫してよいことを伝える。 ・安全に活動することができるように、ペアを作り、穴を開ける児童と段ボールを押さえる児童に役割を分担する。
展開②	４　水彩絵の具を使って、表したいことを表す。 ・色を濃く塗ったら、表したいものがはっきりして、楽しくなりそう。 ・色の塗り方を工夫したら、表したいことの感じが伝わって、楽しくなりそう。	・水の量が多いと水彩絵の具の色が段ボールに定着しづらいため、水の量を少なくしたり、段ボールに絵の具を直接出して着色したりする指導を行う。 ・適宜、製作途中のパネルから顔を出して鏡で確認するように促し、表現と鑑賞の関連を図りながら活動に取り組むことができるようにする。
	５　顔を出したときにより楽しくなるための表し方などを考える。	・次時の学習において、顔を出したときにより楽しくなるためにどのような工夫をするのかをワークシートに記入するよう促すことで、見通しをもつことができるようにする。その際、いくつかの材料を提示し、活用してもよいことを伝える。また、工夫するために必要な材料を持参してもよいことを伝える。 思・判・表（発想や構想） 形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。【観察・対話・作品・ワークシート】
終末	６　学習を振り返る。	・楽しくなるために工夫したことや難しかったけどがんばったことなどを、ワークシートに記入するように伝える。 ・パネルから顔を出した児童の姿を撮影し、ワークシートに貼付することで、次時に児童が自ら学習を調整することにつなげる。

(3)　１・２時の評価規準と判定基準

	１・２時の評価規準　【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
思・判・表（発想や構想）	○形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 【観察・対話・作品・ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 穴の開いた段ボールを見て感じたことや想像したことから、これまでに見たことがあるパネルを想起して表したいことを見付け、段ボールの形や穴の位置、選んだ色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考え、作品に表したりワークシートに記入したりしている。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 表したいことを見付けたり、どのように表すかを考えたりすることができるように、友人と対話する時間や友人の作品を鑑賞する時間を設定する。

(4)　材料・用具と場の設定

ア　材料・用具

(教師)・段ボール　　・段ボールカッター　　・鏡

(児童)・水彩絵の具

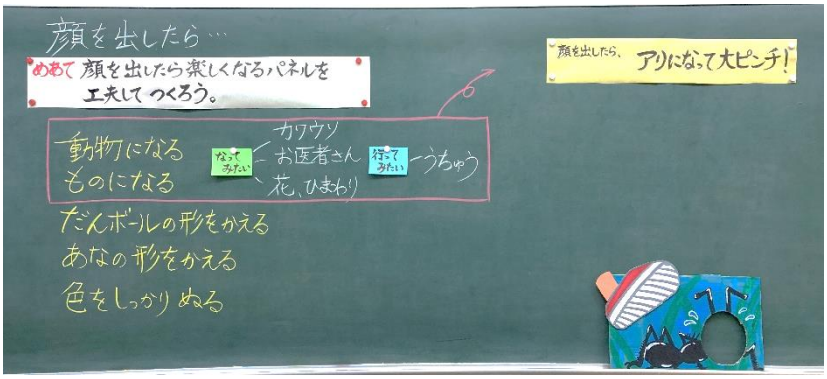
イ　場の設定（教室）

導入時は、机を前に向けた状態にする。

段ボールに穴を開ける際には、穴を開けやすいように机やいすを動かす。

２時目は、机をグループの形にする。

(5)　板書計画



６　３・４時について

(1)　３・４時の目標

・形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。（３時）

・実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。（４時）

・進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとする。（４時）

(2)　３・４時の展開

過程	学習活動	・指導上の留意点　□評価規準【評価方法】
導入	１　前時までの学習を振り返り、学習の見通しをもつ。	・どのような工夫をするのかを確認するために、ワークシートを見返すよう促す。また、数名の児童にどのような工夫をするのかを発表してもらい、活動への意欲を引き出す。 めあて１　顔を出したらもっと楽しくなるパネルを工夫してつくろう。
展開①	２　水彩絵の具やほかの材料を使って、顔を出したときにより楽しくなるように表し方を工夫して表す。	・前時の終末で提示したストローや割りばし、綿などの材料を準備し、活用してもよいことを伝える。 知識 顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かっている。【観察・対話・作品】
	３　作品についての紹介文を書く。	・教師が考えた紹介文を提示することで、「顔を出したら」「工夫したところは」「おすすめの顔は」に続く言葉を考え、ワークシートに紹介文を書くことができるようにする。 技能 水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。【観察・対話・作品・ワークシート】
展開②	めあて２　友達の作品のよいところやおもしろいところを見つけよう。	
	４　互いに作品を紹介し、鑑賞する。	・グループで互いに紹介文を読んだり、顔を出したりしながら鑑賞する活動を通して、友人の作品のよさや面白さを見付けることができるようにする。 ・見付けたよさや面白さを、その作品を作った友人のワークシートに記入することで、友人からのコメントをまとめて読むことができるようにする。 ・一番うれしかったコメントとその理由を、グループ内で発表し合う。 思・判・表（鑑賞） 形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。【観察・対話・ワークシート】
終末	５　学習を振り返る。	・もっと楽しくなるために工夫したことや、友人の作品を鑑賞して感じたことや考えたことなどをワークシートに記入するように伝える。 態度 つくりだす喜びを味わい進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。【観察・対話・作品・ワークシート】 ・パネルから顔を出した児童の姿を撮影し、ワークシートに貼付しすることで、児童が作品の変容を捉え、学習を振り返ることができるようにする。

(3)　３・４時の評価規準と判定基準

		３・４時の評価規準　【評価方法】	判断のポイントと指導の手立て
３時	知識	○顔を出したら楽しくなるようなパネルをつくるときの感覚や行為を通して、形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じが分かっている。 【観察・対話・作品】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 表したいことに合わせて、段ボールの形や穴の位置を決め、水彩絵の具の色を選んでいる。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 段ボールの形や水彩絵の具の色を決めることができるように、表したいことの具体的な様子や色に対するイメージを尋ねる。
	技能	○水彩絵の具を適切に扱うとともに、段ボールや段ボールカッターについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 【観察・対話・作品・ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 段ボールに色が定着するように水の量を調整しながら水彩絵の具を扱うとともに、段ボールやそのほかの材料の特徴を生かしたり組み合わせたりして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 色が定着するかどうかを試すことができるように段ボールの端材を準備したり、児童が材料の組合せを試すことができるような場を設定したりする。
４時	思・判・表（鑑賞）	○形の感じや色の感じ、それらの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもちながら、実際に顔を出し合って自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【観察・対話・ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 友人の作品の紹介を聞きながら、表したいことやその表し方の工夫に気付いたり、顔を出した様子を見て造形的なよさや面白さを見付けたりして、ワークシートに記入している。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 造形的なよさや面白さを見付けることができるように、作品の紹介の際に、互いに顔を出して見合ったり、グループで話し合ったりするように声掛けをする。
	態度	○つくりだす喜びを味わい進んで顔を出したら楽しくなるようなパネルを表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 【観察・対話・作品・ワークシート】	・「おおむね満足できる」状況【Ｂ】 顔を出したら楽しくなるように段ボールの形や穴の位置を考え、表したいことに合わせて表し方を工夫して表現したり、互いにパネルから顔を出して鑑賞したりしている。 ・「努力を要する」状況【Ｃ】と判断される児童への指導の手立て 顔を出したら楽しくなるように工夫して取り組むことができるように、パネルをつくる際は、机をグループの形にして互いの活動が見えるような場を設定するとともに、製作途中のパネルから顔を出して鏡で確認するように促す。

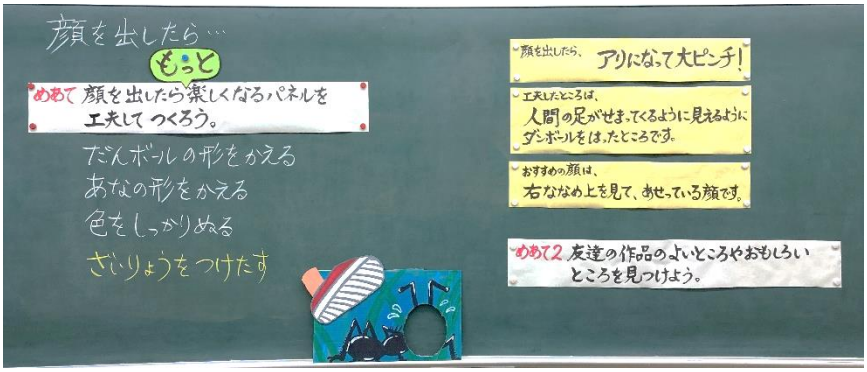
(4)　材料・用具の準備と場の設定

ア　材料

(教師)・段ボールの端切れ　・段ボールカッター　・マジック　・ストロー
・割りばし　・綿　・木工用接着剤

(児童)・水彩絵の具　・工夫するために必要な材料

イ　場の設定（教室）

授業の開始から終了まで、机をグループの形にした状態にする。

(5)　板書計画